

5月26日(土) 東京会場

明治大学アカデミーコモン

2階「ビクトリーフロア 暁の鐘」

東京都千代田区神田駿河台1-1

TEL: 03(3296)4545

テーマ：私立大学の教育力

開催の狙い

平成 18 年度の文教関係予算約 4 兆円のうち、国立大学法人(87 校)に対する運営費交付金は 1 兆 2,200 億円であるのに対し、私立大学等経常費補助金(571 校)はわずかに 3,300 億円にすぎない。一方、わが国の大学の総学生数 277 万名のうち、私立大学は約 74%にあたる 200 万人強に対して教育を行っている。つまり、私立大学の経営基盤は、国からの補助金ではなく、学生からの学納金によって保たれていることになる。

私立大学の使命は、まさにその経営基盤が示すように、学納金に見合う良質な教育を行い、わが国の将来を担う人材を育成することである。しかし、これまで私立大学は国立大学よりも質の高い教育を行ってきたといえるのであろうか。かつて「マスプロ教育」と揶揄された大規模授業が一般化していた。教員は、自己の教育能力の改善に努力することもなく定年を迎えることができた時代もあったことは否めない。

しかし、大学志願者数が大学定員を下回り、同世代の約半数が大学進学できる時代が到来した。シラバス、GPA、セメスター、授業評価などの一連の教学改革は、こうした状況下での大学教育の質の向上をもたらすものとして各大学で導入されている。また、教員の教育力向上のためのFDが義務づけられ、教育支援センターなるものが多くの大学で設置されてきている。

これらの教育改革は、わが国の大学ではそれぞれ別々の企画や取り組みとして各会議体により導入され、運営されてきており、有機的連携が発生していないが、大学で共通したシステムを取り入れることも有効と思われる。例えば米国に見られる単位従量制は、履修学生のコスト意識を高め、教員の側にもプロフェッショナルとしての授業提供が要求される。それがまた教員評価の資料ともなり、人事にもつながるといふシステムが確立されている。また、TA、RA制度をより効果的に利用することによって、わが国の次世代の教育・研究を担う人材を育成する義務が、連盟加盟校にあるのではないだろうか。

私立大学にはなぜ教育力が問われるのか。それを高めるためにはいかなる方策、制度の運用や意思決定が必要なのか。私立大学の教育力向上のための議論を展開したい。

プログラム

受付開始(12:30~)

(敬称略)

1. 講演(13:10~13:50)

磯田文雄 文部科学省高等教育局私学部長

2. シンポジウム(14:00~17:00)

問題提起(14:00~15:30)

安西祐一郎 慶應義塾長・日本私立大学連盟会長

鈴木典比古 国際基督教大学学長

奥島孝康 早稲田大学学事顧問

コーヒーブレイク

ディスカッション(16:00~17:00)

安西祐一郎 慶應義塾長・日本私立大学連盟会長

鈴木典比古 国際基督教大学学長

奥島孝康 早稲田大学学事顧問

(コーディネーター) 安藏伸治 明治大学政治経済学部教授

3. 情報交換会(17:00~18:00)*無料

. 6月2日(土) 仙台会場
パレス宮城野 2階「はぎの間」

〔 仙台市青葉区上杉3-3-1
TEL: 022(265)2223 〕

テーマ：大学の地域貢献とは何か

開催の狙い

「大学の知」その集積を地域に還元し役立てていくこと、つまり地域貢献は、大学の社会的使命として、教育研究に加えて大きな位置を占めるようになっている。大学の研究・教育活動によって得られ伝えられてきた知の集積が地域社会の活性化に役立つことは、21世紀の大学の本質的な機能であるといえるだろう。

大学がそこに根ざす地域に積極的に貢献することは、その地域にとってかけがえのない大学として存在意義を高めることにつながる。産官学の連携を通して地域の活性化を導くこと、地域のニーズに応え、地域文化の向上に寄与すること、あるいはまた、大学間の連携や高大連携の推進により、地域で活躍する人材育成に寄与することも地域貢献と言えるだろう。同時にそれは大学の研究活動の進展と教育の有効手段となりうる。

現在、各大学において、さまざまな形で地域連携・地域貢献が行われているが、知の拠点としての大学の地域貢献とは何なのか、どのような地域貢献が可能なのかをここで改めて問い直してみたい。地域貢献を大学の機能として位置づける、個別の研究者による自発的な取り組みではなく、大学の組織的取り組みとする、自治体、市民、企業をパートナーとして、地域のニーズとの関係を明確にもつ、学生の教育という視点をもつ、といった論点を中心に議論したい。各大学の社会連携推進を担う教職員の方々を中心に、積極的な参加をいただければ幸いである。

プログラム

受付開始(12:30~)

(敬称略)

1. 講演(13:05~13:50)

佐野 太 文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課長

2. シンポジウム(14:00~17:00)

問題提起(14:00~15:30)

仙道 富士郎 山形大学学長・大学コンソーシアムやまがた会長

木本 圭一 関西学院大学商学部准教授

伊藤 雅夫 東京農業大学生物産業学部長

コーヒーブレイク

ディスカッション(16:00~17:00)

仙道 富士郎 山形大学学長・大学コンソーシアムやまがた会長

木本 圭一 関西学院大学商学部准教授

伊藤 雅夫 東京農業大学生物産業学部長

(コーディネーター) 音 好宏 上智大学文学部教授

3. 情報交換会(17:00~18:00) *無料

6月23日(土) 福岡会場

ホテルクリオコート博多 4階「バロックの間」

福岡市博多区博多駅中央街5-3
TEL: 092(472)1111

テーマ：大学活性化対策のあり方

開催の狙い

大学の生き残り競争は熾烈を極めている。18歳人口の減少と進学率の上昇により、志願者に対する大学収容力が100パーセントとなる、いわゆる「大学全入時代」が幕を開けている。それはつまり、大学が学生を選ぶ時代から、学生が大学を選ぶ時代に変化していることを意味する。いかに魅力ある大学として輝き続けるか。これは大学の規模に限らず、すべての大学が直面している課題であり、早急に戦略を打ち立て取り組まなければ、淘汰されていくことは必至であろう。

しかし、これらの改革は「生き残る」ことが目的であってはならない。その改革は、「未来の日本を創造する良質の人材を輩出する」という大学の社会的使命を達成しつづけるための生き残りでなければならない。つまり、小手先の改革ではなく、本当に社会に必要とされる大学であり続けるための改革でなければ、意味をなさない。

大学が輝きをもって社会に存在感を放っていくために各大学ではいかなる施策がなされているのか。今フォーラムでは、大胆な施策を取り入れ、活力ある大学として注目を集めている大学を中心として、問題意識を構成員がいかに共有し、意思決定したのか、各大学が活力のある大学として生き残るためにどうすればよいのか、今後の課題について論じたい。同じ状況をかかえる多くの大学の参考となる情報交換となることを期待したい。

プログラム

受付開始(12:30~)

(敬称略)

1. 講演(13:05~13:35)

山下 宏幸 福岡大学学長

2. シンポジウム(13:45~17:00)

問題提起(13:45~15:15)

石川 憲一 金沢工業大学学長

大塩 武 明治学院大学学長

松岡 博 帝塚山大学学長

コーヒーブレイク

ディスカッション(15:30~17:00)

山下 宏幸 福岡大学学長

石川 憲一 金沢工業大学学長

大塩 武 明治学院大学学長

松岡 博 帝塚山大学学長

(コーディネーター) 安藏 伸治 明治大学政治経済学部教授

3. 情報交換会(17:00~18:00) *無料

7月21日(土) 京都会場

リーガロイヤルホテル京都
2階「桜の間」

京都市下京区東堀川通塩小路下ル松明町1
TEL:075(341)1121

テーマ：学生中心の大学づくり エンrollment・マネジメントと教育支援

開催の狙い

大学全入時代を目前に控え、学生を大学の中心に据えた教育支援のあり方がますます問われるようになってきているなか、「エンrollment・マネジメント」の考え方が日本の大学でも広がりを見せ始めている。「エンrollment・マネジメント」の定義は様々であるが、一般的にはマーケティングの考えに基づき、入学から卒業まで一貫して学生を支援するマネジメントと位置づけられており、アメリカの大学では広く取り入れられている。

ユニバーサル化を迎えた高等教育の現状では、目的意識が希薄なまま、安易な入学・退学を繰り返す学生も少なくない。入学した学生に対し、学生それぞれの目的に合ったプログラムやサービスを提供し、学生がドロップアウトや他大学への編入などで退学することのないよう一貫して卒業までの支援を行うことは、社会で活躍できる人材を輩出する大学の使命であり、また、大学経営の観点においても重要である。さらに、学生満足度の向上は、卒業生のロイヤリティや社会的評価の獲得につながるという意味で、今後の大学改革において重要な要素であると思われる。

エンrollment・マネジメントの遂行にあたり、各大学は自校のポジショニングを正確に捉え、アドミッション・ポリシーやディプロマ・ポリシーを整理し掲げたうえで、正課授業、正課外活動の両面から一貫した支援を行う必要がある。これまでの日本の大学では、縦割りの部局構造の中で、一貫性に欠ける支援を行ってきたが、「人間力」育成やコミュニケーション能力の向上が叫ばれる現在、各部局の垣根を越えた横断的な教育支援の仕組みが早急に求められている。

そこで、本フォーラムでは、アメリカの大学での基本的な考え方や先行大学の取り組み事例を参考にしながら、エンrollment・マネジメントと教育支援というキーワードを念頭に議論を深め、日本の大学における学生中心の大学づくりの方向性を考えたい。

プログラム

受付開始(12:30~)

(敬称略)

1. 講演(13:05~13:35)

山田 礼子 同志社大学社会学部教授

2. シンポジウム(13:45~17:00)

問題提起(13:45~15:15)

本郷 真紹 立命館副総長

二宮 皓 広島大学副学長

川崎 友嗣 関西大学社会学部教授

コーヒーブレイク

ディスカッション(15:30~17:00)

本郷 真紹 立命館副総長

二宮 皓 広島大学副学長

川崎 友嗣 関西大学社会学部教授

山田 礼子 同志社大学社会学部教授 *コーディネーター

(司会) 安藏 伸治 明治大学政治経済学部教授

3. 情報交換会(17:00~18:00) *無料

10月27日(土) 福岡会場

ホテルクリオコート博多 4階「バロックの間」

福岡市博多区博多駅中央街5-3
TEL: 092(472)1111

テーマ：人材育成と産学連携

開催の狙い

キャリア意識を高めることを目的とした教育プログラムの開講など、キャリア形成や就職支援体制の強化が、私立大学を中心に、各大学で本格的に進められている。一方、バブル崩壊以降の産業界では、人材の流動性の高まりと急速なグローバル化のなかで、即戦力となりうる人材を求めており、産業界の大学卒業生に対する要求水準はますます高まっている。

これまで、産学連携というと、大学が頭脳を、産業界が資金をそれぞれ提供して共同研究を行うことが一般的で、大学にとっては、厳しい財政状況のもと研究高度化のために外部資金をいかに獲得するかということに主眼が置かれていた。しかし近年、産学連携は研究成果だけではなく、その研究プロセスや営みのなかで、学生への教育という面からみても非常に効果的であることが指摘されている。従来の大学の教育研究だけでは培えない視野の広がり、研究の着眼点あるいは社会人としての基礎的力量を学生に身につけさせることができるということで、人材育成という観点から産学連携のもつ意味に注目が集まっている。

今フォーラムでは、大学の使命である「有為な人材育成」という視点から、産業界と大学との連携のあり方と今後について議論を深める機会としたい。ますます高度化、複雑化を極める社会を担いうる創造的人材を輩出する機関として、大学は学生にいかなる力量を涵養することが求められているのか、それを産業界と連携しながらどう育成していくのか。

大学の今後の人材育成のあり方における新たな方向性としての産学連携にスポットを当て、大学、経済界、行政の立場を超えて議論を行うこととしたい。これからの大学を担う若手教職員を中心に、幅広く参加いただければ幸いである。

プログラム

受付開始(12:30~)

(敬称略)

1. シンポジウム(13:05~17:00)

問題提起(13:05~15:15)

西山 徹 味の素(株)技術特別顧問

肥塚 浩 立命館副総長

休憩

吉澤 雅隆 経済産業省産業技術環境局大学連携推進課長

宮本 康彦 福岡大学産官連携推進委員長・理学部教授

コーヒーブレイク

ディスカッション(15:40~17:00)

西山 徹 味の素(株)技術特別顧問

肥塚 浩 立命館副総長

吉澤 雅隆 経済産業省産業技術環境局大学連携推進課長

宮本 康彦 福岡大学産官連携推進委員長・理学部教授

(コーディネーター) 新井 泰彦 関西大学システム理工学部教授

2. 情報交換会(17:00~18:00) *無料

. 11月10日(土) 仙台会場
三井アーバンホテル仙台 2階「花宴の間」

〔 仙台市青葉区本町18-11
TEL: 022(265)3133 〕

テーマ：教員と職員の新しい関係構築

開催の狙い

大学を構成するのはコンシューマーたる学生、ステークホルダーたる父母や校友（同窓生）・地域など様々な要素があるが、その責任主体は教職員であることは間違いない。したがって、教育研究、大学経営いずれに関しても、社会的に見れば教職員が総体（その代表としての理事会）としてその責務を担っていると考えるべきであり、教育研究は教員、管理運営や経営は職員というように明確に分割することは困難であり、適切ではない。

さらに、教育研究を前進させるためには、これまで教員・職員どちらにも属していなかった業務に取り組む必要性が出てきたり、職員が今以上に教育研究面で力量発揮を求められる場面が増えてきている。これは大学の社会性の高まりと見ることができ、大学としても社会の期待に対して、主体的に説明責任を果たしうる「組織らしい組織」にしていくことも重要になってきている。

そうした視点から、「教職協働」のあり方をみると、第一は学生の教育活動をより効果的に実施すること、そのための研究高度化を行うこと、第二は大学の力量を社会に発信することを通じて新たな資源やネットワークを取り込んでくること、第三は大学が社会に期待される機能を果たすために持ちうる力量を総動員して社会貢献を果たすこと、が今日的に求められる。その意味で「教職協働」は単なる教員と職員の協力関係ではないし、教員のサポート体制充実のための議論ではない。

この間行われているFD活動やSDの取り組みは、その基盤になる取り組みである。教員・職員それぞれに求められる基本的な資質や能力を明らかにし、そのうえにたつて大学のアドミニストレーターを育てていこうという取り組みであり、言い換えれば大学におけるOD（Organizational Development）につながるものである。

フォーラムでは、教職員は「大学人」として期待されている役割をどう果たすか、そうしたことを通じて大学のアイデンティティをどう形成するべきかについて、議論することとしたい。

プログラム

受付開始（12：30～）

（敬称略）

1．講演（13：05～14：00）

井下 理 慶應義塾大学総合政策学部教授

2．シンポジウム（14：10～17：00）

問題提起（14：10～15：10）

安岡 高志 東海大学理学部教授

横田 利久 中央大学経理部副部長

山本 眞一 広島大学高等教育研究開発センター教授

コーヒープレイク

ディスカッション（15：30～17：00）

安岡 高志 東海大学理学部教授

横田 利久 中央大学経理部副部長

山本 眞一 広島大学高等教育研究開発センター教授

（コーディネーター） 西川 幸穂 立命館総務部次長

3．情報交換会（17：00～18：00）*無料

. 11月17日(土) 大阪会場

関西大学尚文館

「マルチメディアAV大教室」

〔大阪府吹田市山手町3-3-35〕

TEL: 06(6368)1121

テーマ：新時代の大学像 国立大学と私立大学のデザイン力

開催の狙い

2004年4月の国立大学法人化から三年が経過し、今年は中間報告が行われる。受身の姿勢から立ち上がった国立大学の運営体制は、トップのリーダーシップのもと主体的な改革へと動いてきている。一方、私立大学を取り巻く環境を鑑みると、国立大学法人化に加え、18歳人口の減少、国の高等教育予算の私学助成への減額や競争的資金への転換等、新たな局面を迎えている。社会に本当に必要とされる大学として生き残るために、私立大学は今、一層の変革が求められている。

高等教育機関の競争環境がグローバル化する中、現在、21世紀COEや特色GP・現代GPなどに代表される、模範となる教育研究施策への行政主導の支援が行われているが、それだけに頼らず、大学独自の变革をいかに進めていくのかが問われている。旧来の大学自治の良さを受け継ぎつつも、学生に選ばれる存在価値のある大学へといかに展開すべきか。また、国家予算における教育への投資向上を要求しつつも、各大学の財政の自立をいかに進めていくのかも欠かせない視点であろう。

そこで、今フォーラムでは、教育立国日本において、国立大学、私立大学は今どのような状況にあるのか、そしてどのような改革が求められるのかを考えたい。国立と私立の役割はいかに異なるのか。あるいは同じなのか。社会から求められる大学として、双方が存在価値をもちながら、いかに輝きつづけるか。

日本の高等教育の大転換期に、国立私立各大学の变革と個性ある自立の方向、新時代における国立大学と私立大学のデザイン力を探る機会として、高等教育の将来を担う若手の教職員、大学の経営・運営の関係者、ならびに教育関係の研究者やマスコミの方々にも参加いただき、議論を深めたい。

プログラム

受付開始(12:30~)

(敬称略)

1. 講演(13:10~13:50)

磯田文雄 文部科学省高等教育局私学部長

清水 潔 文部科学省高等教育局長から変更になりました。

2. シンポジウム(14:00~17:00)

問題提起(14:00~15:30)

安西 祐一郎 慶應義塾長・日本私立大学連盟会長

赤岩 英夫 国立大学協会専務理事・元群馬大学学長

井上明久 国立大学協会副会長から変更になりました。

松下 正幸 松下電器産業(株)代表取締役副会長

コーヒーブレイク

ディスカッション(16:00~17:00)

安西 祐一郎 慶應義塾長・日本私立大学連盟会長

赤岩 英夫 国立大学協会専務理事・元群馬大学学長

松下 正幸 松下電器産業(株)代表取締役副会長

(コーディネーター) 八田 英二 同志社大学学長

2. 情報交流会(17:00~18:00) *無料